

第38回 坂の上の雲に見るナショナリズム

この年末よりNHKで司馬遼太郎氏の名作『坂の上の雲』が連続ドラマとして放映されることになり、心待ちにしている。この長編小説は中国でよく読んだものだ。筆者2度目の上海駐在は1987年から天安門事件直後の90年までであり、当時の上海にはゴルフ場もなければカラオケバーもなく約700名の日本人駐在員一同ひまを持て余したものである。一時期麻雀に凝ったこともあるが、思うことあってこれもきっぱり止めたものだから、ますます無聊をかこつようになった。仕方ないので夜は読書かビデオ鑑賞となったのだが、手元に書籍やビデオが大量にあるわけでもない。日本から取り寄せた名画カサブランカは100回くらい見て、一時は台詞の大半を暗記できるまでになった。本も長ければ長いほど読み応えがある。せっかく上海に駐在しているのだから中国に縁のある小説がありがたい。といったわけで『坂の上の雲』も10回は読んだだろう。当時の息苦しい上海で仕事がうまくいかず気が滅入っているとき、単身赴任の筆者に元気を与えてくれたのがこの本であった。

1904年から始まった日露戦争はロシアの南下を食い止めるための祖国防衛戦争であり、日本国民は一致団結して帝政ロシアに立ち向かった。歴史書や小説では政治家や陸海軍人たちの功績が語られているが、真の功労者は三国干渉の屈辱と恐怖から富国強兵国家の必要性を悟り、全てをなげうって困窮生活に耐えた国民である。当時の日本人の貧しさは今の中国の比ではない。農村部の子供の大半は裸足であり国民は外貨を稼ぐため映画『野麦峠』のような悲惨な労働環境を耐え抜いた。祖国を守るために自らの意志で戦った日本人の健気さと気高さこそが当時『坂の上』を必死に目指す日本人の英雄的精神であったのである。

『坂の上の雲』で筆者が最も魅力を感じる人物は、黒溝台や奉天で奮戦した桑名藩出身の立見尚文中将(当時)である。彼は1845年、桑名藩江戸屋敷で生まれ、若いころは立見鑑三郎と名乗り、柳生新陰流の使い手として剣を磨き、戊辰戦争後も官軍に屈せず、『雷神隊』を組織して京都、宇都宮、長岡、会津若松等を転戦した。長岡藩と協同した北越戦争では奇兵隊参謀の時山直八を朝日山に討ち取り、山縣有朋が指揮する官軍を何度も破っている。西南戦争では一転、官軍の大隊長(少佐)として出征、城山で大西郷を追い詰め、その勇姿は当時の錦絵を飾ったという。続く日清戦争では四国(丸亀、松山)の強兵を率い歩兵第10旅団長(少将)として平壤を一気に攻略したが、単なる猛将ではなく敵軍を威嚇するため背後の平壤市街地への砲撃を進言した参謀を一喝する侠気ある侍であった。現場の指揮官として誰もが認める帝国陸軍のエースであった彼に日露戦争で再び、そして最後の出番が巡ってくる。しかも天下分け目の戦いの主役として。

『坂の上の雲』の主人公は俳人正岡子規と軍人秋山兄弟であるが、(兄の)秋山好古旅団長(少将)が騎兵支隊を指揮して守る日本軍最左翼の黒溝台、沈旦堡(遼寧省)に、1905年1月ロシア第2軍が襲いかかり

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

1/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号
日本証券業協会 加入
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 03-5117-1040

黒溝台会戦の火蓋が切られた。わずか8000人の秋山旅団が10万人の大軍団に対抗できるわけがなくこの救援に吹雪の深夜急行したのが立見中将率いる日本最強の第8師団(弘前)であった。侍の頃から夜討ちを得意とする彼は戦史に前例のない全師団挙げての夜襲を強行、圧倒的多数の敵軍を必死に食い止める。最終的に第5師団(広島)、第2師団(仙台)、第3師団(名古屋)も投入され、零下20度の吹雪のなかで一進一退の激戦が続き双方夥しい犠牲者を出したが、40キロに亘る散兵線を寡兵で耐え抜いた日本軍に凱歌が上がり敵は奉天に退却した。ここを突破されたら日本軍は総崩れになり、日露戦争は日本海海戦を待たずに終わっていたはずである。

その立見中将が生まれた場所が桑名藩江戸屋敷であり、東洋証券本社正面前の中央区八丁堀の一帯である。筆者行きつけの小料理屋がここにありあり、気持ちが悪く落ち込んでいたとき、長岡の銘酒で一盞傾けると「坂の上の雲」に登場する名場面が次々に浮かび、日本にもかつて坂の上の雲を目指してひたすら前進した時代もあったものだと思ひ起こし、疲れが取れる思いがする。

どうも最近日本は元気がないようだが、歴史学の泰斗キッシンジャー博士は、「過去一世紀にわたり偉大な業績を挙げた国が一気に没落するわけがない。それは世界の歴史が証明している」と断言し、日本の将来を楽観している。その通りだと思う。

それにつけても思うのは、ロシアとの開戦にあたって、必死になって戦争回避を模索したのが、日露両国の経済格差と戦争の無意味さを理解していた政府(軍部や元老であり、一方無謀にも精神論だけを振りかざし、勇ましく政府の尻を叩き、国民を煽ったのがマスコミや、東京帝国大学の七博士たちであった。大山巖元帥は帰宅して「今日も七人のバカが(圧力を掛けに)やってきおった」と家人にこぼしたという。

いま中国は世界中から頼りにされる経済大国となった喜びに沸いている。先だって建国60周年を祝う大イベントが国慶節の夜に挙行され、最後に胡錦濤主席を含め全員で合唱した「歌唱祖国」に何度も登場するフレーズは「繁栄富強(=富国強兵)」である。ネット世代を中心とする若者たちのなかには、アヘン戦争以降、列強に奪われた国土や資産を取り戻そうという勇ましい機運が充満している。だから尖閣列島や南沙群島を巡る領有権問題で中国政府はなかなか対外的に譲歩しにくい環境にあり、アジア各国が警戒の目を向けるようになっている。中国の首脳陣は平和協調の必要性を充分理解しているが、ナショナリズムの対応はいまもむかしも難しい舵取りが要求されるものである。(了)

注 文中述べた意見は全て筆者の個人的見解である。

平成21年11月27日

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号
日本証券業協会 加入
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

株式の手数料等およびリスクについて

- 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大1.2075% (税込み) (約定代金が260,869円以下の場合、3,150円 (税込み)) の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。

国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

- 外国株式等の売買取引には、売買金額 (現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額) に対して最大0.8400% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

債券の手数料等およびリスクについて

- 非上場債券を募集、売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

投資信託の手数料等およびリスクについて

- 投資信託のお取引にあたっては、申込 (一部の投資信託は換金) 手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。

投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

株価指数先物 株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大0.0840% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大4.20% (税込み) (約定代金が2,625円に満たない場合は、2,625円 (税込み)) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

株価指数先物 株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

3/3

